

第6号

会報 めいおんの会

発行 平成25年3月15日

「めいおんの会」(名音大出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目 522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

飛び込め、そして受け止めよ。

～強き教師を目指して～

名古屋音楽大学准教授 柴田 篤志 (音楽教育)

教員養成を生業としていると、どうしても無視できないものが「採用実績」だ。平成 25 年度の採用実績は大変厳しかった。これは当大学の卒業生に限ったことではなく、全体として音楽科の教員採用は抑制されつつあると感じる。

生徒数・児童数が減っている。音楽という教科の年間授業時数も他教科が“脱ゆとり”で一斉に増加傾向にある中で美術と共に据え置かれ、実質的には減少している。それでも新卒を採用しているのだから教育行政側も打つ手は打っているのではあろう。

かつて、「子どもの数が減ること」を理由に学校の数が減り、教員の数が減り…新採をゼロにした時代があった。教育現場で今日、四十代くらいの年齢層の人材が薄い、と言われるのはここに起因するとされる。現在は少ないとはいえ、新採があるのだから、未来を見据えて戦略が立てられていることは間違いない。

とはいえ、小規模校には音楽の専任自体置かないという対応も現実のものとなっている。東海地区では周辺県でこの対応が広く行き渡り…結果として学校の教育力が著しく低下したとしか思えないケースがある。当然音楽のみがその原因ではないのだろうが、学校経営の根幹が訓育にあるのは間違いない。表現系教科は、それに最も貢献できるはずなのだ。

教員になる夢を持つ若者には、現実の厳しさを奇貨として嗤えるくらいの大胆さ、剛胆さを求めたい。現在、現場が必要としているのは、ハイリスクハイリターンの特化型ではなく、どんな過酷な状況にも耐えられる強い人材だ。剃刀の切れ味より、斧の力強さが求められる。それでいて、細かな作業にも対応できる器用さと、斬るという作業に特化せず打ち付ける、掘る、曲げるといった別の作業に対応できる柔軟さも必要だ。器用貧乏になれとは言わない。ユーティリティプレイヤーを目指したい。

音楽教員である前に、まず教員であれ。「教授力、教職実践力あってこそその音楽力」というのが当大学の教職課程のスローガンである。音楽力で対抗すれば、東海地域だけを見ても愛知県立芸大の壁は厚い。しかし、教職実践力をニーズに合わせて養成していけば、実際に使える人材として現場は評価する。

教職を目指す諸君、「強くあれ、志は高くあれ、逆境に負けぬ覚悟を持て。」歩みを止めさえしなければ、どんなに遠い道程も踏破は可能だ。何としても現場に飛び込め。現場は厳しい。しかし、そこで叩かれ揉まれて初めて教師は育つ。教師になりたいなら、現場に入るしかない。それには強くなるしかない。大学は君たちを教師にはできないかもしれないが、現場に飛び込むための助走路にはなる。

名音大は、最良(かつ最強)の助走路を目指します。会員の皆様、ご支援、ご協力、よろしく願いいたします。

平成25年度 総会・研修会・懇親会のお知らせ

日 時 平成25年8月18日(日) 10:00～15:00

会 場 名古屋音楽大学 成徳館1104教室(総会・研修会)、学園食堂(懇親会)

講 師 名古屋音楽大学非常勤講師 杵屋 六春先生(他、2名)

研修会内容 「長唄・三味線の演奏と実技研修」

※ 中学校では和楽器に加え、民謡や長唄等の唄い方や発声の指導が必修になりました。この機会に指導法を学んでみませんか。もちろん小学校の先生方も大歓迎です。詳細は後日お知らせします。

会員の活躍（名古屋市関係）

NHK全国学校音楽コンクール

◇小林 千加（吉根小・2卒、11期）〈市〉銀賞

◇多羅尾恵美（牧の池中・11卒、20期）〈市〉金賞 〈県〉銅賞

愛知県合唱コンクール ◇多羅尾恵美〈県〉銀賞

CBCこども音楽コンクール ◇小林 千加〈東海地区〉優秀賞 〈中部日本決勝大会〉優秀賞

◇多羅尾恵美〈東海地区〉優秀賞 〈中部日本決勝大会〉優秀賞

愛知県吹奏楽コンクール

◇中西 功（平田中・61卒、7期）〈市〉銀賞 ◇伊藤 信穂（港南中・16卒、25期）〈市〉金賞

◇長田 彩（日比野中・17卒、26期）〈市〉金賞◇石村 佳愛（高杉中・22卒、31期）〈市〉銀賞

Japan Student Jazz Festival 2012 ◇塚崎 崇史（若葉中・60卒、6期）ベストサウンド賞

※ 合唱や吹奏楽等のコンクールで上位入賞された指揮者の先生を中心に掲載しました。このほかにも合唱のピアノや日頃の指導・運営に携わり、上位入賞に尽力された先生も多数います。

また、部活動以外にも各学校での活躍はもとより、初任者研修の指導授業、5年目研修の代表授業、教員海外研修、音楽教育の研究会での活躍、教育研究論文の応募、吹奏楽、ジャズ、合唱等音楽関係行事のスタッフおよび全体指導者、教育相談学会での活躍、名音大の学生に教職についての講話など、多くの会員が幅広く活躍しています。

合唱部を指導して

名古屋・牧の池中学校 多羅尾恵美（H11卒、20期）

牧の池中学校に勤めて5年目になりました。初任からの5年間を振り返ると、周りの先生方に助けをいただければ、日々の仕事に追われる毎日だったと思います。

特に合唱部の顧問としては、伝統ある合唱部をどう指導したらいいのか、戸惑いを感じていました。初めは生徒との関係もうまく掴めませんでしたし、合唱指導にも自信がなかったので、「指導」というより、「生徒と一緒に練習をする」毎日を過ごすようになりました。他校の先生方から教わった練習メニューを生徒と一緒にやってみたり、生徒と一緒に演奏会に行ったりもしました。そして、演奏会の感想について話したり、生徒が探してきた合唱練習メニューを取り入れたりしていると、会話も増えてコミュニケーションが取れるようになりました。結局、今もその形は変わりませんが、生徒から教えられることもたくさんあり、新たな音楽の魅力に気づかされて刺激を受ける毎日です。

また、この5年間には多くの先生方にご指導やご助言をいただきました。本校は音楽科が一人なので、音楽の指導に迷った時には他校の先生に相談をします。いつも先生方は熱心に話を聞いてくださり、丁寧なアドバイスをしてくださいます。演奏を聴いて励ましの言葉をくださる先生方もいらっしゃいます。先生方のご助言は本当にわかりやすく励みになるお言葉ばかりです。

最近、名音大の同級生がボイストレーナーとして指導に来てくれています。顧問が私一人なので本当に助けられています。私は、名音大で学んだ「音楽」を通して、素晴らしい出会いに恵まれてきたことに、今改めて感謝しています。周囲の方々への恩に報いるためにも、生徒に音楽の素晴らしさや魅力を伝えられるよう、日々勉強していきたいと思っています。

《編集後記》

巻頭言は、教職担当の柴田先生に教員採用の状況、教職を志す学生への思いを執筆していただきました。私たちが日頃から現場に即した実践力を身に付け、それが発揮できるよう努力していきたいものです。

ホームページはご覧いただけましたか。フェイスブックも開設しました。会員相互の絆が一層深まり、力量が高められればと思っています。指導事例等、皆様からの投稿もお待ちしています。（ゆ）